

## 世界遺産アカデミー認定講師 File No.46

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第46回は、ツアー旅行でもひとり旅でも自由気ままに足を伸ばしてしまうほどの大の旅行好き、福岡県在住のWHA認定講師、田中 成美 さんです。田中さんは、学生時代から様々な海外諸国を巡り、また、元・九州国立博物館ボランティアとして英語ガイドを務め、趣味の書道・茶道においても、外国の方々と積極的に交流されていらっしゃいます。今回は、その多種多様な国際体験を通して感じた世界遺産の素晴らしさ、そして、異文化交流の魅力について、語っていただきました。

### ——実際に訪れてみなければ 分からないような、 辺鄙な場所を選びたい。

学生時代は日本文学で学び、英語は苦手だったものの、両親からアメリカ合衆国への短期留学を勧められ、海外の楽しさを知りました。留学先はテキサス州、卒業旅行ではハワイを訪れ、それ以来、海外には年1回ぐらいで旅行するようになりました。ところが、ある日、親から「目的無しに、ふらふらと海外へ行くな」と旅行目的の「レポート提出」を求められました。親を説得するために仕方なく取り組みましたが、今振り返ってみると、調べた先は世界遺産ばかり。このことをきっかけに、旅行日記を書くようになりました。最近ではアルジェリアを訪れたのですが、この「ムザブの谷」の土でできた置物(写真※)は、「欲しいんだけどなあ」と言っていたら、もらえたものです(苦笑)。ムザブの市場では食用ラグダやコンセントの先っぽまで売っていましたね。皆が持ち寄ったものを何でも売っていました。市場では、偶然アルジェリアのテレビ取材班と居合わせたり、日本人が珍しいこともあって、現地の人から一緒に写真撮影してほしいと言われたりしました。こういった体験が面白くて、海外旅行はやめられません!



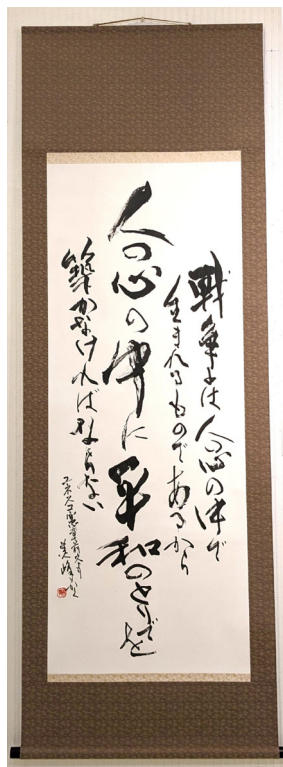
「souvenir」と刻まれた、お土産

これまでに訪れた国は、西ヨーロッパ全諸国から東はハンガリー、旧ユーゴまで。アフリカはアルジェリア、チュニジア、マダガスカル。中央アジアはウズベキスタン、トルコ、キプロス。海外駐在していた親戚や友人の影響も大きいです。いとこはイラン。別のいとこは、オマーン、カタール、オーストラリア、ヒューストンと転々としていました。ネパール、ハイチ、マリ駐在の親戚もいました。友達はハンガリー、バングラデシュやチュニジア、セブ島などに住んでいました。国際色豊かな親戚や友達に囲まれていると、その国がどういう国なのか、自然と興味湧いてきますし、知らない国ほど関心が高まります。幼少の頃、毎週日曜の朝に「兼高さんのお世界の旅」を欠かさず観ていました。兼高さんの話す日本語が丁寧で美しく、色々な国で色々な人と自由に話している姿に魅了され、子ども心に憧れたものです。「兼高さんのような大人になるためには英語が必須!」と親に言われて留学したところ、現地では片言の英語で充分通じ、これで行ける!のです。かえって英語を勉強しなくなってしまい、英語圏ではない国を訪れる方が楽しいです(笑)。挨拶だけなら、30カ国語ぐらい言えます。日本地図よりも、世界地図の方が解ります。都会的な中心地よりも、辺鄙な所に魅力を感じます。自分の足で行かなければ、自分の目で見なければ分からないような場所を選びたい。ツアー参加でも、現地パンフレットに目を凝らして、あえてマニアックな場所を探します。誰も知らないような

変な訪問地へは、実はひとり参加が多く、行く相手がいないから、ひとり参加同士で仲良くなっちゃう、感じですよ(笑)。

### ——異文化交流によって 再発見する日本の魅力

学生時代は博物館学も履修し、研修で、大阪万博跡地に建てられた「国立民族学博物館」を訪れました。展示されていた「アフリカのお面」が印象に残っています。博物館学実習では北九州市立歴史博物館内で農家から寄贈の水車を洗ったり、古文書に携わったりしました。2014年からは九州国立博物館でボランティア活動をしました。ボランティアの契約は基本3年間、更新につき最長6年間の期限があり、2020年に卒業しました。現在でも特別展開催期間にはボランティア経験者の特典として、来館者の少ない時間帯に開催される学芸員の「特別レクチャー」に参加できます。私は英語が得意ではないけれど海外の方と話すことが楽しいので、「英語ガイドグループ」に所属していました。ある時、数名の外国人と日本人ひとりが混ざったグループが来館されました。「英語ガイド」として挨拶すると、彼らはなんとアフガニスタン人でした。ガイドとしての熱意が伝わったのか、最後まで一緒に展示を案内して周りました。乾燥地帯に暮らす彼らは、瑞々しい「太宰府の森」にたいへん興味を示して、森林をバックに記念撮影も行いました。館内では、彼らは籠籠や水甕の前で足を留め、「これ、僕の家にあるよ」と。土でできているので、水の温度が一定に保てるそうです。古文書の展示コーナーでは、経典文字が気になった様子でした。案内の終わりに「この展示物の中で、何が興味深いですか?」と尋ねてみたら、「写経と火縄銃」の答え。外国の方が日本のどのあたりに関心を持つのかということに、興味を惹かれ



日本書道教育学会[第72回 書道學會展]

ます。ちなみに、以前、WHA主催の「アフガニスタン大使館セミナー」に参加した際、大使閣下にその時の写真をお見せしたら、彼らはお知り合いの国連職員でした。

世界遺産以外の関心事としては、小さな頃から続けている書道です。72年続く伝統ある學會展に今年も出品しました。先日嬉しい入選の知らせを受けた作品は、ウクライナ情勢がよぎり、また世界遺産に関する言葉にしたかったので、「戦争とは人の心の中で生まれ〜平和のとりでを築かなければならない」(ユネスコ憲章 前文)を書きました。畳一畳の大きさがあり、作成中は部屋が墨の香りでいっぱいでした。墨色にも気を遣い青墨を足して柔らかな心を表しました。新年には東京芸術劇場でお披露目です!

体を動かすことも好きで、ランニングは欠かさず、長距離マラソンや登山にも挑戦しています。五島ゆうやけマラソンの10年選手です。走って体力をつけて、屋久島に登る。熊野古道を歩く。比叡山、高野山を1日弾丸でも行く。比叡山や薬師寺・中尊寺では写経もしました。

### ——真実の姿が隠されたまま 遺されていく、世界遺産

私自身は自然遺産の方が好きかもしれません。特に、西表島のトレッキング、カヤック体験は、とても印象深いです。西表島では、大木に聴診器を当てると、幹の鼓動を聴くことができます。正直言うと、西表島が有名になってほしくはありませんでした。世界遺産になる前の自然を味わいたいのです。小笠原諸島・母島の石門を訪れた時のことも、感動的でした。マダガスカル島では、ナイト・サファリで、可愛い瞳の大きいリスザルや声を上げながら木を飛び移るシファカに出遭えました。文化遺産に目を向けると、マルタ共和国の巨石遺跡群も素晴らしいものです。私が訪れた時は、地中海を臨み立つ神殿の姿で、柱石や石壁にも触りたい放題でしたが、現在は保護テントで覆われています。保護・保全のために必要なことは理解していますが、本来とは違う姿です。ポンペイ遺跡も、現在は野ざらしですが、いつか保護シートで覆われ、遺跡エリアは立ち入り禁止となるかもしれません。そういった遺跡や文化財は、これからも増えていくのでしょうか。真実の素晴らしさが隠されたまま遺されていく世界遺産……。ありのままの姿と守ることの間に葛藤があります。ウクライナ、モルドバ、ベラルーシ周辺の世界遺産についても、情勢を考えると、いつ訪問できるでしょうか。ステップの広がると、パキスタンも憧れますし、文明の始まりを感じさせる、ガンジス川やヌビア遺跡にも行ってみたいですね。

私自身が幼少の時から海外の影響を受けたことと同じように、小さな子どもたちにも、世界遺産の面白さを知ってもらいたいです。もちろん、高齢の方々にもまだまだ知らない世界があって、そういう世界を楽しんでもらいたいです。初めてのことに怖さや不安はつきものですが、世の中は悪い人ばかりだけではないですし、助けしてくれる人はたくさんいます。「百聞は一見にしかず」で海外の楽しさを知ってほしいです。これからも、WHA認定講師として、幼稚園生から諸先輩の方々まで、地図やお土産品を使いながら、楽しく面白く世界遺産の魅力を、そして、地球の上に乗っかっているひとりとして、どこか違う場所にいる様々な人々について、お伝えしていきたいです。